

**平成24年度
中国四国農政局事後評価技術検討会**
～ 国営土地改良事業等事後評価関係（第1回）～

議 事 録

大木土地改良管理課長

それでは、定刻となりましたので、ただ今から国営等事業管理委員会、補助事業事後評価に係る中国四国農政局事後評価技術検討会を開催します。

まず、始めに、本技術検討会開催に当たりましては、原則公開とされておりますことから、11月14日に、本日開催する旨をプレスリリースするとともに、当局ホームページにも掲載したところですが、傍聴等の申し込みはなかったことをご報告させていただきます。

それでは、開催に当たりまして、事後評価に関する国営等事業管理委員会委員長の西田農村計画部長より挨拶申し上げます。

西田農村計画部長

本日は、来年（平成25年）3月に公表を予定しております補助事業5事業種11地区に係る事後評価結果書の案について、ご議論をお願いいたします。

限られた時間ではございますが、忌憚の無いご意見を頂きますようよろしくお願いいたします。

大木土地改良管理課長

～ 技術検討会委員5名の紹介、配布資料の確認、議事進行、会議資料の公開について説明～

永井委員長

委員の皆さま、関係の皆様のご協力を得ながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。それでは、早速、議事次第により進めたいと思っております。では議事次第1の補助事業事後評価の概要について説明を事務局からお願いいたします。

宿野農政調整官

～ 補助事業事後評価の概要について説明～

永井委員長

ただいまの件について、何か質問はありますか。無いようでしたら、議事次第2の平成24年度補助事業の詳細説明地区について、各課からお願いいたします。質問等は詳細説明地区4地区が終わってから一括でお受けしたいと思っております。

各課長（水利整備課、農地整備課、地域整備課）

農業農村整備事業等補助事業事後評価地区別結果書（案）により詳細説明対象4地区を説明

永井委員長

それでは、今説明のありました4地区につきまして、ご意見ご質問等があればお願いいたします。

中道委員

全体的に評価時点と計画時点で比べているデータがいくつか出ていますが、例えば畑地帯総合整備事業の「北条砂丘大栄地区」では、単収や価格を記載していますが、これはその年によっても変わるのだから、出来るだけ、こういうデータは3年ぐらいの平均をとってもらった方がよいのではないのでしょうか。可能であれば、そういう風にしてもらいたいのですが。その方が平均的な比較ができるのでは。

浅野係長

様式的には計画時点と評価時点を比較するようになっていきますので、こういった形で整理をさせてもらっています。しかしながら、中道委員がおっしゃるとおり、その年だけがあまりにも高い、若しくは低いといったことがあると参考にならないということで、一応確認できる範囲では、別途確認させて頂いているものもありますが、23年だけが大きく外れているというものはありませんでしたので、そのまま記載させてもらっています。

中道委員

例えば、今のデータを見ると、平成13年に比べるとながいもの単収は非常に良く、すいかやらっきょうの単収は良くないと、この単収はその年だけなのか、傾向としてこうなっているのか、どう考えたらいいのでしょうか。事業実施前より落ちているのじゃないかという話も出てきます。土地の問題があるのかは良くは分かりませんが、そういうことが気になります。単収などが伸びているものについては文句はないが、減っているものについては心配がある。

西田部長

中道委員から指摘のあったように、事業実施前の平成13年単年では変動がある可能性があるから、平成13年のデータについても3年平均のデータが取れるかどうか、また、現時点も3年平均のデータが集まるかどうかについて事務局で検討させてもらいます。

中道委員

そうでないと、これを比べてもあまり意味がなくなってしまうデータであれば、データを出しても仕方が無いという結論に最終的になるのではないかと思う。

宿野調整官

統計的に主要な作物で、なおかつ市町村単位のデータが整理されているものについては、今おっしゃられた整理は可能であると思いますが、全国的にメジャーでないもの、地域固有の特産物であるものとかについては、統計データがなかなかそろわないため、最近は何のくらいですかとか、去年の実績はどうですかといった聞き取りをして、これは最近の傾向なのかどうかということを確認した上で記載している部分がありますので、はっきりと統計としてこうだと整理するのは難しいところもあります。

中道委員

例えば、今の表で見れば、数値が細かい。このように細かい数値となっているのであれば、データは持っているのではないのでしょうか。大体このくらいという数字であれば、こんなに細かい数値は出てくるはずはない。それであれば、さかのぼっても見ることはできるので、参考に入れてもらったら傾向は分かると思います。先ほどから言っていますが、気になるのは、これがこの時だけの数値なのか、全体的に平均してこんなものなのかということだけなのですが。

宿野調整官

この様式自体は本省で統一された様式ですので、今のおっしゃられたことが分かるよう

な資料を中に入れるか、または別につけるかは検討させて頂き、極力、中道委員の指摘に応えられるよう、中身を再整理するように検討させていただきます。

池田委員

久米南町は、事後評価結果のまとめにある農業農村のもつ多面的な機能の発揮に大きく貢献とあるが、この多面的な機能は、事業目的のどこに対する回答となっているのでしょうか。他の3地区は、農業の生産性が上がったとか、維持管理費用が抑えられたとか直接具体的な効果が述べられているが、久米南町のこの部分だけは、かなりファジーな評価で、事業目的の中のどの部分で多面的機能を捉えているのかがちょっと分かりにくい。

瀬戸地域整備課課長補佐

検討させていただきますが、基本的には、農業農村の活性化の一環として、この言葉を入れさせて頂いています。もう少し分かりやすい表現となるように検討させていただきます。

宿野調整官

この事業目的は個別事業地区の事業目的を記載しております。もう少し大きなものとして、食料・農業・農村基本計画であるとか、土地改良長期計画の中には多面的機能の保全や発揮が目的として掲げられていますので、そういった意味では、農業農村整備事業全体の目的の一つとして含まれていると理解して頂ければ良いと思います。また、その部分を参考資料としてお示しさせていただきます。

石丸委員

今の議論に絡むと思いますが、美しい農村環境の再生・創造で、利用者数というのが出てきますが、これを見るとじり貧というか一目瞭然で減っているし、1年間で1,000人というのがどれくらいのものか、活性化に寄与していると評価しているが、ちょっと苦しいのではないかと感じがする。これが多面的機能の一翼を担っているとしたら、いよいよ弱いのではないかと感じがぬぐえません。

いつも、この総合整備事業というのは評価に困る。あれこれやっているというのを総合といえそうかもしれないが、総合力を何かで表したいですね。

瀬戸課長補佐

中山間の活性化の最大の目的なので、もう少し総合力を表すのにいいデータがあれば良いのですが。

中道委員

今の話ですごく問題なのは、活性化したいと言いたいのですが、その説明としてこのデータではおかしい。これは活性化されていないというデータになる。3,460人の目標も達成できていないし、平成20年以降徐々に利用実績が下がってきていると、これは活性化していないというデータと言われかねない。あまり、ここを強調するのはいかがなものなのか。

今、石丸委員がおっしゃったように総合的にと考えるのが、ただの足し算でなくて、どこかで伸びるのが総合だろうと思います。そこをどういう風に見るかという、もう少しデータのプラスのあり方というものを、違うデータを捨てるなどというのがあるのだろうと思います。これしか示されていないので、私たちはこれ以上何のデータがあるのかは分からないので、言いようがない。もう少し違うデータで活性化しているというデータがあるのかもしれない。例えば今のデータにしても人数的にみるとこんなものであるが、内容的にみると、今までは単に人が集まっていただけであるが、今はもう少しこういう新たな動きが出てきているなどという人数は少なくなっても活性化していると読み取れる。人数だけが関係するのではないというような話はいっぱいある。その辺を見れば、数字が少なくなっている、不活性化という話ではないということが言えるのではないのでしょうか。

石丸委員

1,000人/年というのは1年に1日来た人を1,000人捉えて計算しているのだと思うが。例えば、この久米南町に10人の子供や孫が町外から戻ってきたとすると、単に10人と数えなくてこの計算と同じで考えると10人×365日で3,650人分のインパクトがあるともっと評価してもいいのではないか。これまで、農業では生活できないと思っていた子供や孫が都市から戻って継いでくれているということがあれば、そのインパクトの方が、本当は地域にとっては大きいような気がする。そういうカウントの仕方や拾い方でもいいと思うし、その方が説得力がある。1年に1回お祭りの時に来ただけなら、お土産など買うものは決まっている。365日いる人というのは、いろんなところで買い物するなど地域に対するインパクトとして大きい。単なるお客さんと住人では大きく違う。もう少しこういう説得力のある言い方をすると多面性というか農村の魅力と言うのがもっと出てくるのではないでしょうか。

永井委員長

これは多目的ホールの利用者の数だけで、イベントなど他にもいろいろな取組をしているのではないかと。その辺のところは、記載内容を検討してもらいたい。

瀬戸課長補佐

他にもやっていると思います。データについては見直してみます。

西田部長

中山間地域総合整備事業というのが、町全体の構想がある中で、遅れているものを拾っていったものだから、パーツで見るときれいに出ないということもあると思います。その辺りを少し事務局で工夫させてもらい、次回にもう一度相談させていただきます。

宿野調整官

地元がどのようなデータを持っているのかということもあり、我々が直接持っているものではないので、確認しながら、出来るだけ充実させていただきます。

井上委員

愛媛県の久保地区についてですが、共同での農業生産活動が盛んに行われるようになったという表現がありますが、アクセスが容易になって、どういう共同の農業生産活動が行われるようになったのかなという単なる疑問です。

今後の課題のところでは、耕作放棄地防止活動、水路農道の保全活動、農家民宿など集落ぐるみの農業生産活動という記述があるので、これが共同での農業生産活動ということかなと思う一方で、水路農道保全活動は農業生産活動に付随する生活を含めた共同活動であろうと思います。あと、耕作放棄地防止活動も農業生産活動、生活環境の維持向上といえるかもしれないし、農家民宿についてはどちらかというとな農業生産活動というよりは、農家の経済活動の多角化であり、この集落ぐるみの活動として農業生産活動以外のものも含まれているように読めるので、どうなっているかなと。

アクセスが容易になったことによる共同での農業生産活動については、つながりという因果関係がピンとこなかったため、補足説明してもらおうとより効果が分かりやすくなるのかなと思いました。

山形農地整備課長

23ページの下に中山間地域等直接支払交付金における農業生産活動の表が出ています。農業生産活動に至る過程をみますと、農道という地域を縦走する大きな道路ができたことにより、6つの集落が結ばれたこと、付帯する集落道や既存の道路が整備されたこと等により、人と人の行き来が盛んになりました。このことにより、今まで集落の一部でしか行

っていなかったことが集落全体に広がったり、隣の集落と一緒に新たな活動を始めるなど地域の絆が広がりました。そのことが、農地や農業用施設などの資源の保安全管理活動につながったと考えています。これを後押しするのが中山間地域等直接支払交付金でして、このような人の輪の広がりとともに、営農活動の維持や農地・農業用水等の保全に関わる活動も地域ぐるみで行えるようになったということです。この活動がどういうものが表に書いているもので、農地の法面管理や簡易な基盤整備（農地の畦畔を取り払うなど）、農業用水路や通作のための道路の管理など、農地や農業用施設の周辺で、地域のみんなでいろいろな共同活動をやりましょうという意識が芽生えています。あと、農家民宿の経営や景観作物の作付けなどもあり、これらを一纏めにして幅広く農業生産活動として捉えております。

永井委員長

この農道事業について、22 ページの昔は2～3mの道路で大型車両が通行できなかったのが、本農道を整備したことで、車輛の大型化が可能になったとありますが、どのくらいの道路幅になったのかという基本的なことが記載されていない。どのくらいになったのかのデータは必要な気がするのですが。

山形課長

既存の市町村道や農道の幅は、2～3m程度で車同士が離合できない幅でしたが、今回新設された農道の幅員は4mとなっています。26 ページの計画一般平面図に幅員を掲載していますが分かりにくいいため、本文の方にも追記させていただきます。

参考ですが、事業による農道新設ではなく既存道を拡幅するという考えもありますが、ここは急峻な傾斜地でして、溪流といった小河川が側に走っているなど既存道の拡幅がなかなか従来から出来ない地形条件的な制約があるところです。

池田委員

大栄町のすいか、愛媛の温州みかんがなくなるというのは、消費者の好みとかで売れないとかで昔からの生産地で生産品目が変わってきているのでしょうか。

宿野調整官

大栄町のすいかについては、本地区の砂丘地域よりもう少し南の大山の麓の黒ボク地帯が大栄すいかの主産地になっています。それが広がり、砂丘地帯でも多少作っていましたが、高齢化や重量作物でもあるため、減ってきています。

中道委員

温州みかんについては、需要が減っているというか、価格がつかないので、農家は生活できないくらいの価格となっている。農家は味が劣るから作りたくないが、極早生の方が値段が高いので、みかんの生産はそちらにシフトしてきている。あとは、ここに出てくるデコポンなどの中晩柑類が増えてきている。みかんは収穫に時間や人手がかかるので、収穫時期の異なる柑橘類を栽培して自分の家で労働力を賄えるような程度に労働力をならすような形になってきています。これは新聞に出ていたが、温州みかんでは、愛媛の地位は下がったが、中晩柑類は全国的に見ても愛媛はすごく伸びてきていて、全体の柑橘類の総量では全国一らしいです。

永井委員長

他にご意見ございませんか、無いようでしたら、次の議題に進めたいと思いますが、休憩はどうでしょうか。特に休憩が不要でしたら、その他7地区の概要について事務局より説明をお願いします。

宿野調整官

永井委員長

それでは、質疑応答に入ります。その他7地区についてご意見ご質問等ございましたら、お願いします。

中道委員

大津第1地区では、先ほどの私の質問とも関係するが、1ページのところに生産額が入っていて、事業実施前と比べて評価時点の金額が下がっていると出ていますが、これだけ見ると効果がマイナスにしか評価されない。たぶん、他でも同じようなことは起きてきていると思うので、その時点の単価はどうなっているのか分からないが、当時の単価と比べて現在の単価では下がってきている。特にみかんなどは明らかに下がってきている。特に今はデフレも進んでいるため、そういう単価を入れてはどうか。

宿野調整官

この地域の単価が出るかどうかは分かりません。さっきの統計の一般的な単価になるかもしれませんが。

中道委員

これだけ見てしまうと事業効果はマイナスとしか見えない。その単価が下がり生産額が下がることは正しいことなので。これだけ見るといっはいかかなものかと思われる。

中道委員

綾歌南部地区で、農道の話であるが、ここは近くにテーマパークが出来て、むしろ混雑するはずであるが、この道路ができたことで避けられている。この時間短縮の時間については混雑した時点で測ったものではないのではないかと。テーマパークが出来て混雑しただしなのであれば、この混雑も含めて考えると、むしろ効果は上がっているのではないかと思える。

宿野調整官

感覚的などころしか聞けないかもしれませんが。今年はプールが新装オープンして夏場は大変な渋滞が発生したと聞いています。

中道委員

計画時にはそれほどの渋滞は無かったかもしれないが、現在、テーマパークが傍にできている。こういうのが、まさに後の効果で、いい場合もあれば悪い場合もある。例えば、渋滞が起こるようになり、道路を作っておいて良かったということが後で発生することもある。計画前のものをそのまま出してきても効果として本当に良いのかどうかということもある。状況の変化がマイナス方向に動くこともあるので。

宿野調整官

一応、文言的には24ページの下のところテーマパークによる渋滞について記載しています。

中道委員

文言はあるが、実態は見えない。短縮時間がどのようになったのかということ、渋滞の時間が何となくでも分かれば、もう少し、追記できるのではないかと。

宿野調整官

地域の人に確認して、渋滞時はこの程度の時間がかかっているというのを分かれば追加

したいと思います。

石丸委員

投資効率は必ず載せることになっているのか。これはのしがりか。

見ると地区毎にかなり数字にばらつきがある。数字をどう見るのかが良く分かっていないが、総合整備事業はかなり効果が低い。これは総合整備事業としては相場なのか。他の事業との差は何なのかと思う。

投資効率自体の評価はまったくいらぬのか。何故、投資効率が低いのか、ちょっと高く出ているのかとか。低い理由を分析することで、今後の課題が出てきているということを読めばいいのか。これは数字だけ載せればいいのかという話なのですか。

宿野調整官

当初の採択時は、総合的に判断いたします。経済性が確保されているというのは1つの要件でしかありません。

石丸委員

1.0より高ければいいと。

宿野調整官

1.0より高ければ、経済的に妥当であると。他にも事業の必要性や地元の熟度、国の補助金以外の資金の状況などを総合的に判断して事業採択を決定する。これは、1要因でしかないので、これが高ければ必ず採択するというものではないです。

石丸委員

それで、採択した時の数字と今の数字がどうだというのはしないのですか。

宿野調整官

比較することにはなっていないのですが、今は総費用総便益方式に変わってきているが、計画時点では投資効率方式でやっているため、それを現在に置き換えてやりなさいというのが本省の指導です。

石丸委員

それと何故この数値なのかという分析というのはしないのか。その分析の1つが今後の課題に出てきていると読んでもいいのか。それは、また別の話ですか。

宿野調整官

投資効率方式の効果が低い部分と今後の課題がリンクしているものもあれば、そうでないものもあると思います。

石丸委員

例えば、評価時点で1.00だけれども、今後の課題にあるこれをやれば10年後、20年後には効果は上がっていくという言い方はできるのか。効果を上げていくためにはこれが必要だという。あまり、評価の時点ではこの数字にはこだわる必要はないのですか。

西田部長

事業種も違っており、一概には言えない感じがします。

石丸委員

本省の方もこの数字を見て、これはダメではないのかとは言わないのですか。

西田部長

基本的に本省から指導が出ているのは、なかなか補助事業では、投資効率まで算定するのが難しかったので昨年までは当局では載せていなかったため、国営と同じようにしっかりと分析するためには投資効率まで出してというところまで。将来的には石丸委員の言うような分析をしていかないといけないと思うが、補助事業ということもあり、なかなか難しい。

中道委員

当初と比べると計算方法や評価する対象も変わってきているので難しいのではないのでしょうか。当初のと比べてみても、今は違う評価の仕方をしているので、必ずしも今の時点それでいいのかどうかというのは。もし、そうしなさいというのがあれば、我々で意見を出した方がいいのかもしれない。

石丸委員

投資効率を載せるなら載せるで、これをどう見るかというのが欲しい気もするし、それが無いのであれば載せる必要はないのではないかと。もしくは 1.0 以上あるということだけでも良いのではないかと。

西田部長

それは数字を載せておかなければいけないとは思いますが。石丸委員のご意見のように 1.0 から 1.6 まで投資効率に大きな差があると、その理由はなぜかということが気になる部分があります。1.0 といった低い効果のものについては、もう少し書き込んだ方がいいのかもしれないとは思いますが。

中道委員

ただ、農業だけでなく一般的な投資も含めて、いろいろな事業をすればするほど、投資額が増えた割には効果が低くなるのは当たり前のことである。このことからすると中山間総合整備事業の投資効率は 1.0 あれば、いい方ではないかという気がする。

今の石丸委員のご意見の中で気になったのは、投資効率を見ながらも、採択することは別の要素も入っているという、この別の要素は何なのかが評価する時に気になる。この別の採択の要素については生かされているのかどうか分からない。採択と評価との間にかなり差がある。その採択の要素にある地元の意向がどうであったのかなどまでは評価できないので難しい。

宿野調整官

国営事業につきましては事後評価で調査費の予算を確保しており、今時点でアンケートを取り直すなどの調査ができますが、補助事業については予算がなく、改めて調査をやり直すことができないため、元々、採択の時に見ていた効果を今の数字に置き換えるぐらいしかできない。新たな効果が出ているというのが分かっているにもかかわらず、それを数値化して入れ込むことはなかなかできないのが現状です。

井上委員

その他地区の川越地区と高野中央地区について、農業集落排水事業で未接続世帯がそれぞれ 3 割程度あるという数字が示されていますが、この 3 割という数字は割合として高いのか低いと見るのか。割と高いのかなという印象はありますが。

2 地区はいずれも中山間で過疎高齢化が進行している地域であり、以前の議論でも話題に上がったことがあるかもしれませんが、未接続世帯というのは、高齢者の独居世帯や夫婦世帯が 3 割の太宗を占めているのではないかと思います。この場合にパンフレットの配布や接続事例の紹介によって、新たに接続が見込めるかどうか、良く分からない。過去

にパンフレットの配布等を行って、接続率が上がった場合があったのかどうか。

また、接続するにはコスト負担が発生するため、そういった高齢者世帯に接続をお願いするのが果たしてどうなのかというのが正直ちょっと気になる。もちろん水質基準をクリアしていないのであれば別途考えないといけないのかもしれないが、その辺の線引きをするのがどうなのかというのが悩ましいところかなと感じた。

津郷係長

接続率の関係は、当初同意をとって事業を行っていますので、基本的には、高齢化に起因していますが、お願いするというベースでしかないのです、しかも啓発などを戸別訪問で地道に上げていくしか他に手段がないというのが実情です。

井上委員

そういう手段しかないのだろうと想像できるが、そう書かざるを得ないと。

中道委員

今の話で言うと2つの地区では明らかに取組が違う。高野中央地区では、利子補給をすると書いてあるが、川越地区では行っていない。これは、もしやるのであれば、市に働きかけて、こういう風に補助金を出すとか融資をなさいとか働きかけをしながら、このパンフレットの配布というのがあるのではないか。

津郷係長

市によっては、補助を出す場合もあるし、今後の状況を見てそういうパターンにする場合と、最初の1、2年で補助金を出すのでつないで下さいという場合もあるので、それは市によって状況は違うのですが。

中道委員

言っている意味は良く分かるので、今後の課題のところ、パンフレットだけではなくて、融資とかをしていく必要があるのではないかとということぐらいは書けるのではないか。

津郷係長

そういった記載ができるのではないかと、当方から市に確認は取っていますが、市としての対応はここまでとの回答があった。

中道委員

これは課題なので、市がパンフレットでやりますというのを聞いて書くということではないのではないかと。パンフレットでやるのもあるかもしれないが、融資の方向を考えてもらうとかを書くのもあるのではないかと。課題としては、今はそういう取組をやっていないのであるから、やったらどうかと。この課題については全てがやれることを書いている訳ではないので、でも書いておかないとやらないでしょう。

池田委員

先ほども話をしたが、農業予算を水洗化の方に持っていった方が良いのではないかと。うちの実家でもそうだったが、高齢者は先が短いので水洗化はいいと必ず言う。田舎で土地が広いと整備費の負担金が非常に大きい。実家では非常に悩んで、最終的には快適性を取って水洗化した。そちらの福祉関係の予算を上げるか、農業予算をそちらの方に入れて改良するかということが私は良いと思うが、昼の説明では、予算の区分けがあるとの話であり、難しいことは理解したが。融資の財源は農業予算ではなくて、市の財源からなるだろうから。

宿野調整官

市の財政状況によります。

西田部長

あと、これは個人負担になるので。

中道委員

市の財政状況があろうとなかろうと、課題として書くのには問題ないのではないか。それを見て、市が対応するかどうかというのは、市の財政がひっ迫しているので出来ませんというのであれば、それはそれで、私たちは仕方がないというところ。でも、課題があるにも関わらず、しかも解決策も見えるのにも関わらず、課題として書かないのはいかなるものか。

石丸委員

課題は書いているが、方法まで書くと、国からの圧力のように感じるということで、書き込みにくいということではないか。ただ、方法論まで具体的に書き込むということは分からないではない。

石丸委員

この市ではこういう取組をしているという書き方だとダメですか。

中道委員

他の市町村ではやっているのに、自分のところではやっていないというのであれば、詰め寄ってもいいのでは。

井上委員

鹿足地区では、水田の一部でアイガモ農法による有機米の生産を行いとありますが、本地区のある旧柿木村の頃から今の吉賀町になってから以降も、村ぐるみ、町ぐるみで有機農業を進めている自治体ですので、元々、有機米の栽培というのは地域づくり運動の中の一環で取組まれている地区だと思えますが、この整備事業が行われたことによって、有機米の栽培に何かプラスなことがあったのかということが気になったので、教えてもらいたい。

上岡係長

アイガモ農法については、井上委員のご意見のように元々取組んでいたことを把握していなかったのが、事業によってアイガモ農法を実施しているかどうかについて、十分確認が取れていませんので、再度、確認させていただきます。

永井委員長

前半の山口県の田尻地区についてですが、これは区画整理をやって、小さい区画だったところをほ場整備で大きくして、大型機械が入るようになったから、労働時間が短縮されたということでしょうか。それで事業実施前は一筆当たりどのくらいの面積だったのをどれくらいの面積にしたといった情報は分かるのでしょうか。

山形課長

労働時間の短縮については、委員長が仰ったとおりです。現況は 5a ~ 10a 程度の小さな圃場になっていると思いますが、事業で整備する標準区画は 30a 程度以上を基本に考えています。

永井委員長

その辺の情報があまりなかったのです。

張谷係長

今、手元に資料がありませんが、元々の一筆の面積は分かります。

永井委員長

労働時間が3分の1くらいに減ったとあるが。

山形課長

事業計画上の値ですが、現況の労働時間56時間が16時間くらいに低減しています。

永井委員長

その労働時間というのは、移動時間等も含めて。

山形課長

播種・定植や肥培管理、水管理、収穫など稲作に要する各作業の年間トータル時間です。

永井委員長

それが資料から見えなかった。

山形課長

現況の平均面積と筆数、計画の平均面積と筆数、労働時間に係る主要作業など、基礎情報について記載したいと考えます。

宿野調整官

本文に入れるか、参考資料に入れるかを検討させていただきます。

中道委員

さっきの川越地区の話に戻りますが、今後の課題のところ、地域自主戦略交付金と書いてあるが、この交付金というのはどういうものか。

津郷係長

集落排水事業を行っている交付金の名前が地域自主戦略交付金と言いまして、その中で、新しい施設の整備や更新を行っているものになります。

中道委員

これはコンポスト施設の整備をするといったら、そこにお金がつくのでしょうか。この整備と一緒に水洗化（宅内配管、改装工事）のお金はここからは出ないのか。

西田部長

この水洗化のお金は各戸になり、本来は個人が負担すべきところだから、補助対象にはならないと思います。

永井委員長

他にご意見はございませんでしょうか。それでは、他にご意見が無いようでしたら、事務局から今後の日程について説明をお願いします。

宿野調整官

～ 今後の日程について説明 ～

永井委員長

本日予定されておりました議事が全て終了しましたので、議事進行を事務局にお返しします。

大木課長

永井委員長進行大変お疲れ様でした。委員の皆さまには、貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございました。

本検討会の議事録について、事務局で取りまとめ、各委員の確認を頂いた上で、当局ホームページになるべく速やかに掲載する予定としておりますので、ご了承頂きたいと思えます。

本日は、タイトな時間の中で、たくさんの内容をこなして頂きまして、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、平成 24 年度補助事業に係る事後評価技術検討会を閉会させていただきます。大変ありがとうございました。

(参考)

中国四国農政局事後評価技術検討会の概要

1 日時

平成24年11月22日(木) 15:40～17:35

2 場所

岡山第2合同庁舎10階共用会議室A,B

3 出席者

【技術検討会】

池田 賀津彦	社団法人中国地方総合研究センター常務理事
石丸 賢	中国新聞社論説委員
井上 憲一	国立大学法人島根大学生物資源科学部准教授
永井 明博	国立大学法人岡山大学大学院環境生命科学研究科教授(委員長)
中道 仁美	国立大学法人愛媛大学農学部准教授

【中国四国農政局国営等事業管理委員会】

西田 宏	農村計画部長
太田 孝弘	生産部次長
岡山 雅	生産部生産振興課長
藪内 敏行	農村計画部農村振興課長
大木 昭一	農村計画部土地改良管理課長
勝部 剛	農村計画部資源課長
末吉 修	農村計画部事業計画課長
藤原 裕史	整備部水利整備課長
山形 幸	整備部農地整備課長
瀬戸 康行	整備部地域整備課長補佐(代理)
国塩 正明	整備部防災課防災係長(代理)

【事務局等】

大石 哲也	整備部水利整備課補助事業係長
兼重 英治	整備部農地整備課農道係長
張谷 俊二	整備部農地整備課経営体育成基盤整備係長
津郷 和英	整備部地域整備課集落排水係長
上岡 雅司	整備部地域整備課中山間指導係長
宿野 富義	農村計画部土地改良管理課農政調整官(開発)
浅野 弘幸	農村計画部土地改良管理課事業効果係長

4 提出資料

- ・議事次第
- ・出席者名簿、座席表
- ・資料1 補助事業事後評価の概要
- ・資料2-1 平成24年度農業農村整備等補助事業事後評価地区評価結果概要
- ・資料2-2 平成24年度農業農村整備事業等補助事業事後評価地区別結果書(案)
～技術検討会において詳細に説明する地区～
- ・資料2-3 平成24年度農業農村整備事業等補助事業事後評価地区別結果書(案)
～その他評価対象地区～

注) 中国四国農政局行政情報閲覧室(岡山第2合同庁舎4F)において閲覧できます。